



## 平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年1月15日

上場取引所 札

上場会社名 健康コーポレーション株式会社

コード番号 2928 URL <http://www.kenkoucorp.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 瀬戸 健

問合せ先責任者 (役職名) 取締役

(氏名) 香西 哲雄

TEL 03-5337-1337

四半期報告書提出予定日 平成28年1月15日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成28年3月期第3四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	39,514	39.3	3,533	152.0	3,204	164.6	2,002	70.8
27年3月期第3四半期	28,365	83.6	1,402	511.7	1,210	151.5	1,172	△40.8

(注) 包括利益 28年3月期第3四半期 1,943百万円 (61.9%) 27年3月期第3四半期 1,200百万円 (△40.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
28年3月期第3四半期	円 銭 15.81	円 銭 15.80
27年3月期第3四半期	9.50	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第3四半期	47,609	12,158	23.4
27年3月期	39,294	7,486	16.8

(参考) 自己資本 28年3月期第3四半期 11,159百万円 27年3月期 6,601百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
27年3月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 2.50	円 銭 2.50
28年3月期	—	0.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	—	9.15 ～9.63

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

- (注) 1. 当社は、平成27年1月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割、平成27年5月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。  
 2. 年間配当金については、当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定して算定しております。  
 3. 平成28年3月期 期末配当金については、連結配当性向18%～20%に基づく通常配当に、上場10周年を記念した連結配当性向20%の特別配当を加えた年間配当9円15銭～9円63銭を予定しております。また、その算定には、期中平均株式数(平成28年3月期第3四半期累計)を用いております。

### 3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	60,130	53.8	5,004	137.4	4,676	140.2	3,052	86.5	24.09

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※1株当たり当期純利益の算定には、期中平均株式数(平成28年3月期第3四半期累計)を用いております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年3月期3Q	127,436,000 株	27年3月期	123,536,000 株
② 期末自己株式数	28年3月期3Q	0 株	27年3月期	0 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年3月期3Q	126,706,145 株	27年3月期3Q	123,436,000 株

(注)1. 当社は、平成27年1月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割、平成27年5月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。  
2. 株式数については、当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定して算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	P. 4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	P. 4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	P. 4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	P. 4
3. 四半期連結財務諸表	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 9
(継続企業の前提に関する注記)	P. 9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 9
(セグメント情報等)	P. 9

当社は、以下のとおり投資家向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布した資料については、開催後速やかに当社ホームページで掲載する予定です。

・平成28年1月27日(水)・・・・・・機関投資家・アナリスト向け決算説明会

上記説明会のほかにも、当社では、個人投資家の皆様向けに適宜、事業・業績に関する説明会を開催しています。開催の予定等については、当社ホームページをご確認ください。

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(平成27年4月1日～平成27年12月31日)における我が国経済は、このところ一部に弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いてまいりました。また、先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の正常化が進むなか、中国を始めとするアジア新興国等の景気が下振れし、我が国の景気が下押しされるリスクがあります。

このような経営環境の下、当社グループは、成長事業への投資と当社の最大の強みである広告宣伝を活かした販売支援によって成長が見込まれる事業領域へのグループ拡大を推進し、グループ全体が大幅に躍進いたしました。

売上高においては、美容・健康関連事業における最大の成長ドライバーであるRIZAP株式会社が運営するパーソナルトレーニングジム事業が当社プロデュースによる積極的な広告宣伝活動が奏功し、2015年度CM好感度ランキングで第3位(CM総合研究所調べ)を獲得する等、引き続き好調に推移したため、夢展望株式会社及び株式会社馬里邑のアパレル関連事業で売上高が予算を下回ったものの、当社グループ全体としては大幅な増収となりました。

利益面においては、RIZAP株式会社が牽引する形で美容・健康関連事業が大幅に伸長したため、アパレル関連事業の不調やエンターテインメント事業のSDエンターテインメント株式会社が連結子会社化した介護事業会社の不調があったものの、営業利益、経常利益、四半期純利益ともに大幅な増益となり、四半期ベース(平成27年10月～12月)では、20億円と過去最高の営業利益となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高39,514百万円(前第3四半期連結累計期間は28,365百万円)、営業利益3,533百万円(前第3四半期連結累計期間は1,402百万円)、経常利益3,204百万円(前第3四半期連結累計期間は1,210百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,002百万円(前第3四半期連結累計期間は1,172百万円)となりました。

セグメント別の事業概況は、次のとおりであります。

#### (美容・健康関連事業)

美容・健康関連事業のRIZAP株式会社は、当社プロデュースによる積極的な広告宣伝活動が奏功し、新規獲得会員数を更に伸長させたことにより累計会員数は4.4万人を超え、第3四半期会計期間に大型店8店舗(サテライト店からの転換2店舗含む)を出店いたしました。また、RIZAPのサービスを生涯に渡ってご利用いただく取組みにより再度契約するお客様が増加傾向にあります。さらに、RIZAP株式会社の新規事業としてスコアアップコミット型ゴルフスクール「GLEX(グレックス)」を六本木にオープンいたしました。株式会社ジャパングヤルズ及び株式会社ジャパングヤルズSCはフェイスマスクの販売が好調に推移し、株式会社エーエーディは平成27年7月にグループ入りした北斗印刷株式会社とのシナジー拡大に向け取り組んでまいりました。

この分野における当社通販事業におきましては、美容・スキンケアカテゴリの「どろあわわ」は11月に新ブランド『DOROWa(ドロワ)』にブランドリニューアルを行いました。今後さらに、客単価の向上や新商品開発に注力してまいります。また、機器・グッズカテゴリの「エステナードソニック」及び健康食品カテゴリの「ひとてまい」はキャンペーンが好調に推移しました。

この結果、美容・健康関連事業での売上高は21,820百万円(前第3四半期連結累計期間は14,427百万円)、営業利益は4,167百万円(前第3四半期連結累計期間は1,566百万円)となりました。

#### (アパレル関連事業)

アパレル関連事業は、マタニティウェアや出産内祝いギフト等を販売する株式会社エンジェリーベ、婦人服を企画・製造販売する株式会社馬里邑、婦人服及び紳士服を企画・販売する株式会社アンティローザ、婦人服を企画・販売する夢展望株式会社が事業を行っております。

株式会社エンジェリーベはマタニティ通販と店舗販売が堅調に推移し、ギフト事業の売上が回復し順調に推移いたしました。株式会社馬里邑は専門店・百貨店の販売が予算未達となり、催事セールを行うも厳しい状況が続きました。引き続き拡販に注力すると同時に在庫削減による財務改善に取り組んでまいります。株式会社アンティローザは、店頭販売は落ち込んだもののネット通販が好調に推移いたしました。夢展望株式会社はこの秋冬商戦においては、前期からのブランド戦略の転換が奏功せず、主力のワンピースやコートなどの分類で、廃止したブランドの前年同期比並みの売上を、注力したブランドでカバーすることができておらず、全国的な高気温による影響も相まって、売上高は予算を下回る結果となりました。利益面に関しましては、売上高の低迷により売上総利益の確保ができず予算を下回ってはいるものの、販売費及び一般管理費において、前期より進めている低減活動に加え改革による各種施策の成果もあり、前連結会計年度と比較して大幅に改善されてきております。

この結果、アパレル関連事業の売上高は6,760百万円（前第3四半期連結累計期間は3,752百万円）、営業損失は326百万円（前第3四半期連結累計期間は45百万円の損失）となりました。

#### （住関連ライフスタイル事業）

株式会社アイデアインターナショナルは住関連ライフスタイル商品の企画・開発及び販売を行っております。

同社における平成28年6月期第2四半期累計期間（平成27年7月1日～平成27年12月31日）の業績は、インテリア雑貨において、キッチン雑貨を中心としたインテリア商品ブランド「ブルーノ」が好調に推移し、中でもデザイン性に優位性のある「ホットプレート」は引き続き計画以上に売上を伸ばしております。またトラベル商品ブランド「ミレスト」は「トラベルショップミレスト」5店舗に、新たにトラベルショップの新業態「トラベルスタイルバイミレスト」3店舗が加わったことにより、順調に売り上げを伸ばし、売上高は3,052百万円（前年同期2,925百万円）となりました。一方、利益については、広告宣伝費の増加等により、営業利益は57百万円（前年同期96百万円）となりました。

この結果、当社連結業績における住関連ライフスタイル事業の売上高は4,681百万円（前第3四半期連結累計期間は4,157百万円）、営業利益は143百万円（前第3四半期連結累計期間は39百万円）となりました。

#### （エンターテイメント事業）

エンターテイメント事業は、SDエンターテイメント株式会社及び株式会社Xio等が事業を行っております。

SDエンターテイメント株式会社はGAME事業部において、名古屋市内のゲーム店1店舗の閉鎖や一部改装のための休業による減収がありましたが、ビデオゲームのヒット作に恵まれた他、閑散期にはクーポンを配布して再来場の促進を行いました。同社フィットネス事業部においては、平成27年10月より店名変更一周年の入会キャンペーンを実施したことに加え、3ヶ月以内の入会者に無料のサポートシステムを強化することで、入会者の初期定着率の向上を図りました。ホットヨガのハーティノルベサ店閉店（加圧スタジオBLOOMS業態転換）などによる減収がありましたが、オリジナル物販商品のラインナップを拡大したこと、見学者の入会率アップや退会率の引き下げなどの改善に取り組みました。同社ボウリング事業部においては、前期から推進しているボウリング教室を強化したことに加え、渉外活動の強化により、予約団体が好調に推移しました。また、SDエンターテイメント株式会社の子会社である株式会社フォーユー及び株式会社フィリアは事業立て直し期間中のため、利益はマイナスで推移しました。

株式会社Xioはグループ会社向けのシステム及びウェブサイト構築に加えて、スマートフォン向けアプリ開発を行ってまいりました。平成27年6月にサービスを開始したゲームアプリ『超銀河秘球 コズミックボール』は予算未達となったため、改善に向けたシステム改修を行いました。

この結果、エンターテイメント事業の売上高は6,770百万円（前第3四半期連結累計期間は7,064百万円）、営業利益は16百万円（前第3四半期連結累計期間は191百万円）となりました。

## （2）財政状態に関する説明

### （資産）

流動資産は、前連結会計年度末に比べて29.6%増加し、30,703百万円となりました。これは主として、現金及び預金が増加したことが要因であり、受取手形及び売掛金が3,802百万円増加したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて8.9%増加し、16,884百万円となりました。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて20.8%増加し、47,609百万円となりました。

### （負債）

流動負債は、前連結会計年度末に比べて11.0%増加し、22,050百万円となりました。これは主として、短期借入金が増加したことが要因であり、前受金が1,150百万円増加したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて12.1%増加し、13,400百万円となりました。

この結果、総負債は、前連結会計年度末に比べて11.5%増加し、35,451百万円となりました。

### （純資産）

純資産は、前連結会計年度末に比べて62.4%増加し、12,158百万円となりました。これは主として、資本金が増加したことが要因であり、資本剰余金が増加したことによるものであります。

## （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、来期以降大幅な収益向上を計画しており、それに対する前倒しの投資を検討しておりますので、現時点で平成27年5月12日に公表いたしました業績予想から変更はありません。なお、修正の必要が生じた場合には速やかに公表いたします。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を、第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の税金等調整前四半期純利益は451,017千円減少しております。また、当第3四半期連結会計期間末の資本剰余金が326,918千円増加しております。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,686,542	11,603,739
受取手形及び売掛金	8,857,557	12,659,795
商品及び製品	3,474,978	3,645,636
仕掛品	29,201	61,501
原材料及び貯蔵品	451,819	604,797
その他	2,774,620	3,000,101
貸倒引当金	△574,850	△872,165
流動資産合計	23,699,870	30,703,406
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,741,821	5,200,753
土地	2,748,974	2,845,550
その他(純額)	1,951,319	2,282,383
有形固定資産合計	9,442,115	10,328,688
無形固定資産		
のれん	2,473,472	2,525,111
その他	846,659	943,300
無形固定資産合計	3,320,132	3,468,411
投資その他の資産		
投資有価証券	110,153	90,992
その他	2,742,052	3,100,950
貸倒引当金	△106,639	△104,680
投資その他の資産合計	2,745,566	3,087,262
固定資産合計	15,507,815	16,884,362
繰延資産	87,015	21,429
資産合計	39,294,701	47,609,198

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,226,157	1,896,132
未払金	2,938,723	2,586,649
短期借入金	1,706,286	2,850,332
1年内返済予定の長期借入金	4,360,975	3,967,362
未払法人税等	457,724	1,205,359
前受金	4,372,176	5,522,831
賞与引当金	86,365	73,005
返品調整引当金	77,083	99,738
その他	3,633,880	3,848,865
流動負債合計	19,859,373	22,050,278
固定負債		
社債	3,556,000	4,436,200
長期借入金	6,293,340	6,973,875
役員退職慰労引当金	4,158	8,549
退職給付に係る負債	48,914	67,343
その他	2,046,678	1,914,840
固定負債合計	11,949,091	13,400,809
負債合計	31,808,465	35,451,087
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	132,518	1,400,750
資本剰余金	221,769	1,826,039
利益剰余金	6,245,096	7,938,902
株主資本合計	6,599,384	11,165,691
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,333	△1,205
繰延ヘッジ損益	-	△2,983
為替換算調整勘定	-	△1,709
その他の包括利益累計額合計	2,333	△5,899
新株予約権	21,425	18,642
非支配株主持分	863,092	979,677
純資産合計	7,486,236	12,158,111
負債純資産合計	39,294,701	47,609,198



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	28,365,042	39,514,157
売上原価	10,270,953	14,733,928
売上総利益	18,094,088	24,780,228
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	5,027,692	6,875,309
その他	11,664,178	14,370,957
販売費及び一般管理費合計	16,691,870	21,246,267
営業利益	1,402,218	3,533,961
営業外収益		
受取利息及び配当金	2,990	8,665
匿名組合投資利益	41,288	-
その他	23,673	30,212
営業外収益合計	67,952	38,877
営業外費用		
支払利息	187,438	203,379
その他	71,941	165,360
営業外費用合計	259,380	368,740
経常利益	1,210,790	3,204,099
特別利益		
固定資産売却益	147,720	-
子会社株式売却益	351,841	-
保険解約益	-	96,776
その他	25,530	45,763
特別利益合計	525,092	142,539
特別損失		
固定資産除却損	24,352	61,970
減損損失	-	39,139
子会社株式売却関連費用	-	16,109
その他	129,310	10,088
特別損失合計	153,662	127,308
税金等調整前四半期純利益	1,582,220	3,219,330
法人税、住民税及び事業税	528,270	1,321,073
法人税等調整額	△148,850	△59,647
法人税等合計	379,419	1,261,425
四半期純利益	1,202,801	1,957,905
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	30,216	△44,934
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,172,585	2,002,839

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
四半期純利益	1,202,801	1,957,905
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,084	△7,547
繰延ヘッジ損益	-	△4,555
為替換算調整勘定	-	△2,325
その他の包括利益合計	△2,084	△14,428
四半期包括利益	1,200,716	1,943,477
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,169,861	1,994,606
非支配株主に係る四半期包括利益	30,855	△51,129

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

当社が発行した第1回新株予約権が第1四半期連結会計期間に行使され、同期間に連結子会社株式会社アイデアインターナショナル及びSDエンターテイメント株式会社の株式を一部売却し、また同連結子会社が発行した新株予約権が行使されました。この結果、同期間において資本金が1,268,231千円、資本剰余金が1,589,790千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が1,400,750千円、資本剰余金が1,826,039千円となっております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	美容・健康 関連	アパレル 関連	住関連 ライフ スタイル	エンター テイメント	計		
売上高							
外部顧客への売上高	14,427,766	3,652,313	3,667,151	6,617,811	28,365,042	—	28,365,042
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	100,437	490,679	446,833	1,037,950	△1,037,950	—
計	14,427,766	3,752,750	4,157,830	7,064,644	29,402,992	△1,037,950	28,365,042
セグメント利益 又は損失(△)	1,566,390	△45,860	39,882	191,728	1,752,140	△349,922	1,402,218

(注) 1 セグメント間取引消去又は各報告セグメントに配分していない全社費用によるものであります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	美容・健康 関連	アパレル 関連	住関連 ライフ スタイル	エンター テイメント	計		
売上高							
外部顧客への売上高	21,705,445	6,753,934	4,395,291	6,659,485	39,514,157	—	39,514,157
セグメント間の内部 売上高又は振替高	114,724	6,376	286,501	111,369	518,972	△518,972	—
計	21,820,170	6,760,311	4,681,793	6,770,855	40,033,130	△518,972	39,514,157
セグメント利益 又は損失(△)	4,167,931	△326,473	143,340	16,818	4,001,617	△467,655	3,533,961

(注) 1 セグメント間取引消去又は各報告セグメントに配分していない全社費用によるものであります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

エムシーツー株式会社は平成27年5月12日付で発行済全株式を当社からSDエンターテイメント株式会社に譲渡したことに伴い、第1四半期連結累計期間より美容・健康関連事業からエンターテイメント事業にセグメント区分を変更しております。

株式会社Xioはゲームアプリ開発の重要性が増したため、第1四半期連結累計期間より美容・健康関連事業からエンターテイメント事業にセグメント区分を変更しております。

美容・健康関連事業であったミウ・コスメティックス株式会社は主要事業が介護事業であるため、経営管理の観点から第1四半期連結累計期間より同様に介護事業を行うSDエンターテイメント株式会社が属するエンターテイメント事業にセグメント区分を変更しております。

なお、当第3四半期連結累計期間の比較情報として開示した前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントにより作成しており、前連結会計年度の第3四半期連結累計期間に開示した報告セグメントとの間に相違が見られます。